



▲壇上で、『20歳の誓い』を述べる畑澤さん

令和最初となる今年は、男性180人、女性153人の計333人が出席。華やかな振り袖やスーツなどに身を包んだ新成人たちは、友人との久しぶりの再会を喜んでいました。式典では、新成人を代表して永瀧颯人さんと畑澤麗那さんが『20歳の誓い』として、両親をはじめお世話になった方たちへ感謝の気持ちを伝えるとともに、立派な社会人となる決意を宣言し、希望に満ちた未来への第一歩を踏み出しました。

令和2年登別市成人祭  
1月12日(日)、市民会館で『令和2年登別市成人祭』(同実行委員会・市教育委員会主催)を開催しました。

2020年登別市市制施行50周年記念  
令和2年登別市成人祭

## 大人への第一歩



1月10日(金)、滋賀県守山市の小学校の給食で、登別ブランド推奨品『のぼりべつ牛乳』が提供され、児童約6千400人が登別の『味』を楽しみました。

同じ昭和45年に市制施行した登別市と守山市は、東京都福生市と共に友好交流都市の協定を結んでおり、これまでに職員の相互派遣や小学生のスポーツを通じた相互交流などを行っています。

児童からは「おいしい。明日も飲みたい」などという声も聞かれた今回の取り組み。三市は、今後もさらなる交流を図っていきます。

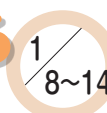
## 友好交流都市のきずな 守山市の給食で『のぼりべつ牛乳』



▲のぼりべつ牛乳を味わう守山市の子どもたち(守山市からの提供写真)

## 多文化共生を肌で感じる

2020年登別市市制施行50周年記念  
令和元年度登別市中学生ニュージーランド派遣交流事業  
～多文化共生推進事業～



1月8日(水)から14日(火)の7日間にかけて、市内の中学生6人が登別アイヌ協会会長・上武和臣さんと共にマオリ文化とヨーロッパ文化が共存するニュージーランドに行き、多文化共生社会を体験・学習しました。

市が取り組んでいる『地域に息づくアイヌ民族の文化などの次世代への承継』、『アイヌ文化などを通じた交流活動の活性化による魅力ある地域づくり』の一環として、海外における先住民族の歴史や文化、取り組みなどについて理解を深め、将来を担う人材を育成することを目的とした初となる同事業。

マオリという先住民族の文化や尊厳を尊重し、共存する社会づくりを進めている同国で、6人は、マオリの人々が多く生活するロトルアや聖地・モコイア島などを訪問。マオリの人々と交流するとともに、同国の歴史や取り組み、マオリの自然に対する考え方を学びました。

日本とは違う文化だけではなく、意外な共通点にふれた6人は、帰国後、「いつかまた、ニュージーランドを訪れたい」と笑顔で話していました。



▲マオリの人々と『歌』や『踊り』などを通して図った交流



▲マオリの伝統的な家屋の造りを見学



▲帰国後、思い出深い体験を報告する中学生